ミクロネシア連邦チューク州ウエノ島

[まとめ：メリットとデメリット]

メリットとして、以下の3点からミクロネシア政府が「原子力PR島」プランを受け入れる十分な動機を持つものと考えられる。

・国の経常収支は赤字が続いている

・その上、インフラの荒廃が著しく、大きな問題となっている

・しかし、観光地としてのポテンシャルを十分に有する

デメリットとしては、漁業・農業・観光業への風評被害が考えられる。

人口：約18,000人 [1]

面積：18km2 [1]

一人当たりGDP：2,844ドル（ミクロネシア全体）[2]

＜経済（チューク州）＞ [2]

漁業とココナッツとキャッサバが主産業で魚を日本中心に輸出し生活必需品をアメリカ中心に輸入しているが貿易額は赤字を記録している。

歳入の5割がアメリカからの援助額で2003年から20年間で13億ドル援助する予定。漁業・農業・観光による自立経済を目指している。

＜観光業（ウエノ島）＞ [1]

ダイビング、シュノーケリング、フィッシング等が楽しめる。

海底には戦時をしのばせる沈船や軍用機が眠っており、世界中のダイバーの関心を集めている。

島には灯台や慰霊碑など、旧日本軍関連の遺物がいくつかあり、観光スポットとなっている。

島内にチューク国際空港があり、グアムからの所要時間は1時間50分。

＜言語・通貨＞ [1]

英語が公用語であり、共通語として使われていること、また通貨がアメリカドルであることは、観光業にとって有利と思われる。

現在では減少しているが、高齢者の中には日本語を話せる人もいる。

以下には、漁業についても高いポテンシャルを有することと、インフラの荒廃ぶりについて記述した調査結果を載せる。

ミクロネシア連邦名誉総領事　荒木芳雄氏のHP[3]より（2007/12/4）

「これまで、ミクロネシア連邦の資源に関心を持つ企業はほとんど無かったと云っても過言ではない。300万平方キロメートルに及ぶ広大な同国経済水域はマグロカツオの回遊路となっており各国が入漁料を払って漁獲を行っている。ミクロネシア連邦は入漁料を得るだけで、自らの手では、漁獲を行っていない。これでは同国の起業は生まれないし雇用創出も期待できない。今回の経済ミッションはこれら水産資源を彼ら自身の手で漁獲を促し、近い将来現地で加工した水産物を日本に輸入しようとするものである。資源国でありながら経済発展の遅れで苦しんでいる同国に対して、この経済ミッションは、同国の水産物加工貿易を促進し、経済の発展に繋げようとするものである。今回ミクロネシア大統領（エマニュエル　マニー　モリ氏）の日本訪日でこのミッション派遣を知り大変感動された。」

ある日本人のブログ[4]より

「チュークはミクロネシア連邦4州の中で最も人口の多い州である。現在の大統領もチューク出身。従って4州の中で最も発展している州かといえば実情は全く逆で、もっとも未開発な（いや「荒廃した」と言うべきか・・・・）州である。特にインフラの面では最低である。トラック・アンド・フィールド（陸上競技場）やテニスコートなどあるにはあるが草ボウボウの荒れ放題。公共の水道システムはなく、下水道システムは崩壊寸前。道路はいたるところ工事中（？）で掘り返したまま放置してあり、どこもココもでこぼこ。そこらじゅうに深い水溜りがあり、走っている車はまるでボートのように水溜りの中を泳いでいる。そのスピードは大体時速５キロから１０キロ程度。早く走ろうにも走れないのである。

中でもひどいのは電力事情である。毎日４時間おきに「停電」と「通電（？）」を繰り返している。これが当たり前になっているため、病院やホテル、アパート、お店など余裕のある施設はみな自前のバックアップ発電機を備えている。発電所を訪ねてみると、そこはまるで「廃墟」。屋根はいたるところ穴だらけで、床はオイルのタレ流し状態である。固定式の大型発電機６基全てが老巧化のため運転不能。バックアップのためのコンテナ型発電機３基中２基が故障中。最後の１基だけが細々とこの島全体への電力供給を支えている。この最後の１基が故障したらこの島は「電力供給ゼロ」の状態となり、一般家庭では食事の煮炊きも出来ず夜は真っ暗、下水道もポンプが動かず稼動停止となる。まさに緊急事態である。おまけに発電所の土地は２年前にリース契約が切れ今は無契約状態。地主から立ち退きを迫られていると言うからもう八方塞がりである。

この島を訪れる前からチュークはひどいところだと言う話は聞いていたが、これほどにひどい所とは思わなかった。」

太平洋諸島センターHP[1]より

「ウエノ島には周辺の島から仕事を求めてやってくる人々が、就職できないまま住み着くことが多く、ミクロネシアで最も人口の密集している島であり、人口問題とともに下水道設備や道路のゴミ、礁湖の汚染などの問題に直面している。」

参考資料

[1] 太平洋諸島センターHP ミクロネシア連邦

http://www.pic.or.jp/tourism/fsm/1.htm

[2] Wikipedia ミクロネシア連邦

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%8D%E3%82%B7%E3%82%A2%E9%80%A3%E9%82%A6

[3] ミクロネシア連邦名誉総領事　荒木芳雄氏のHP

<http://hdh1721.cocolog-nifty.com/blog/2007/12/index.html>

[4] http://plaza.rakuten.co.jp/skburaritabi/diary/201008170000/